

コンパス薬局横浜西 スキルアップ勉強会

2018.6.13 小西

第132回

『シダキュアスギ花粉舌下錠』

鳥居薬品 隈元様

参加者：佐藤、高柳、加納、渡辺、加藤、山崎、猪野、小西、高橋、小平

シダキュアスギ花粉舌下錠は、スギ花粉症の減感作療法(アレルギー免疫療法)薬である。アレルギーを少量ずつ投与して体を慣らすことで、症状の改善、併用薬剤の持続時間の増大、併用薬剤使用量の減量などが期待できる。鼻症状のほか、目症状にも効果を現わす。

【効能・効果】

スギ花粉症(減感作療法)

1. 本剤の投与開始に際し、皮膚反応テスト又は特異的IgE抗体検査を行い、スギ花粉症の確定診断を行うこと。
2. 本剤の使用開始にあたっては、前シーズンの花粉飛散期における患者の症状を踏まえ、他の治療法も考慮した上で本剤の適用の可否を判断すること。
3. スギ花粉以外のアレルギーに対しても反応性が高いスギ花粉症患者に対する本剤の有効性及び安全性は確立していない。

【用法用量】

通常、投与開始後1週間は、シダキュアスギ花粉舌下錠2000JAUを1日1回1錠、投与2週目以降は、シダキュアスギ花粉舌下錠5000JAUを1日1回1錠、舌下にて1分間保持した後、飲み込む。その後5分間は、うがいや飲食を控える。

【特徴】

シダキュアスギ花粉舌下錠は、スギ花粉症のアレルギー免疫療法としてはシダトレン舌下液につづく、2剤目の医薬品である。シダトレンと比べ、錠剤のため持ち運びが便利で室温保管が可能である。また、シダトレンよりもスケジュールが簡易的で、小児も使用できる。3～5年は継続することが推奨され、約8割以上の人には効果が期待できる。

処方医はe-ラーニングを受講した、受講終了医師であることが必要で、薬局に処方に来た際は確認する必要がある。患者さんには患者携帯カードの携帯を促す必要もある。

【副作用】

臨床試験において安全性評価対象783例中394例(50.3%)に副作用が認められた。主な症状は口腔浮腫、咽喉刺激、耳搔痒感、口腔搔痒感等であった。

重大な副作用 ショックアナフィラキシーショック(頻度不明)

【考察】

花粉症患者数は年々増える傾向にあり、アレルギー自体の完治は難しい。くしゃみ、鼻水、かゆみ、湿疹等の症状に対してはこれまでは抗アレルギー剤の使用が通常であったが、最近は免疫療法を目にすることも増えてきた。スギ花粉症に関しては、シダトレンが最初の医薬品であったが、液剤であったり、冷所保管であったりと携帯には不便で使用スケジュールも難しかった。それを改良して携帯に便利な舌下錠としてシダキュアが出たことは非常に有用であり、シダトレンよりも多くの成分を配合しているが小児も使用できる点も良いと思う。ただ、新薬のため2週間処方であることが非常にネックであり、こまめに通院する必要がある。また小児に適用があっても1分間舌下に保持することはなかなか困難だと思われる。処方日数制限が解除されてからが、シダキュア

の本当の力を発揮できるものと思う。いずれ、スギ花粉だけでなく、ヒノキやブタクサなど複数の花粉症に効くものが開発させるのだろうか。免疫療法中止後の症状の移り変わりも、今後より多くのデータが集まり次第調べてみたい。

【質問事項】

Q1：シダキュア or シダトレンとミティキュアの併用は可能か？

A1：可能。

Q2:症状によっては増量せずに初回量を続けることはあるのか？

A2:シダトレンではあったが、シダキュアでは初回量と維持量で副作用頻度にあまり違いがなかったため、低用量で維持するメリットはあまりない。今後保険請求で切られることも考えられる。